

令和7年度 第2回 伊勢市障害者施策推進協議会 結果概要

開催日時	令和7年10月2日（木曜）19時00分～20時30分
開催場所	伊勢市役所東館5-3・5-4会議室
出席委員	宮崎 吉博 会長、大杉 成喜 副会長、河之口 学 委員、斎藤 茂 委員、小林 えり子 委員、畠中 節夫 委員、嶋垣 智之 委員、川合 正良 委員、立松 浩明 委員、溝井 力 委員、山岸 悦子 委員、奥村 隆司 委員、岩崎 直明 委員、三宅 浩 委員、岡田 まり 委員、中村 和人 委員、浅尾 賛平 委員、奥野 育子 委員、杉岡 一幸 委員、奥田 恭子 委員、酒井 未央 委員、堀井 肇 委員、前田 弓子 委員、
欠席委員	倉野 直紀 委員、
事務局	高齢・障がい福祉課長、障がい福祉係長・職員 福祉総合支援センター副参事・総合相談係長 こども発達支援室長、学校教育課副参事 基幹相談支援センター長・職員、地域相談支援センター長
傍聴者	1名

概要

（1）第2期障がい者計画、第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の進捗状況（令和6年度実績）について

○資料に基づき事務局より説明

・地域生活支援拠点機能の充実状況や計画に記載の活動指標について実績を報告。

- ・緊急時支援プランの登録者は4件増加した。
- ・施設入所者の地域移行については移行者0名であった。
- ・施設入所者は8名減となった。
- ・様々な分野での施策、取組を行っている。

（委員からの意見質問）

○就労の関係で一般就労の希望の方が多いと思うが、市役所での採用として応募者がどれくらいいるのか教えてほしい。

→今年度についても、枠をふやして募集している。障がいの種別ごとの募集ではない。応募状況については把握していない。

○盲学校などを訪ねて、掘り起こすといった作業など、聾学校や盲学校との連携を含めて再検討していかないといけない。

○15分雇用というものがあると思うが、4名雇用されているとSNSで見たことがあるが、今の現状について教えてほしい

→短時間雇用については、正確な数字については回答しかねますが、短時間雇用から一般へ移行する人もいます。

○グループホーム設置について、県が進まないのも緊急補助金を設けたり、国の施設整備補助金があるが、伊勢では申請の申込実績がない。保護者からの声も何度も聞いているが、補助金も総額5000万くらいあるのに動きがないという原因はどのようなところにあるのか？

→毎年度、補助金の案内はしているが、事業所の事業計画と結びついていないことが原因と思われる。参入しやすい形のグループホームは増えてきているが、重度の障害のある方が対象のグループホームというのはなかなか増えない。人材が不足しているのも、法人のほうでも事業参入がしやすい状況なのかと思われる。

○法人や事業所への案内をしても難しいと思う。個々の保護者のニーズや課題集約ができていない現状があるのではないかと？法人でなくても取り組めるような施策ができるといい。

○地域生活への移行の目標値と実績の値の関係について教えてほしい。

→入所されている人が地域に出た際の数値であり、施設に入っている人が在宅生活を急に送るのは中々難しいと思う。重度の方のグループホーム整備が進んでいないのも原因の一つだと思う。

○個人対応でないと安全確保をできないので、伊勢市ならではの独自の緩やかさといったものがあり、どれくらいの予算が出せるのかといったところが明確になるといいかもしれない。

○医療的ケア児に対して小さいときから体験や見学といったことができるような仕組みはあるのか？

→三重大学生の教育学部や医学部の生徒と緊急時だけではなく、社会参加するという意味で活動に取り組んで検討している。

(2) 各プロジェクトチームからの報告

○資料に基づき各プロジェクトチーム代表から説明

<人材確保・養成チーム>

・ビジネスパーク伊勢の取組を継続していき、講義を担える人材を増やしていく。

・仕事の魅力発信パンフレットについて、今後も配布していき、他機関での設置の検討をしていく。

・学生用パンフレットの作成についても検討していく。

・人材育成の一環として研修を定期的を開く。

(委員からの意見質問)

○企業では60歳以上の雇用について取り組んでおり、人生設計をもう一度考えてもらう機会を作っているが、その際に仕事の魅力のパンフレットがあれば、参考になると思うので、企業の担当者宛に声をかける等すると広がっていくかもしれないと思った。

○ビジネスパーク伊勢は事業所が持ち回りで繰り返しているんですか？

→本来であれば、講師ができるような人材を育成していきたいところではあるが、今のところはプロジェクトチームに入っている方の中から代表者を選抜して言っている状況。

○継続的に専門の人がフォローに入れるような予算とかはないのか？

→専門的な視点でのPRの仕方を研究する必要があると思うので検討していきたい。

<就労支援チーム>

・企業向けハンドブックの叩き台を事務局が作成し、検討していく。

・先生向けハンドブックを高校生の就労支援ネットワークにて配布した。

・企業見学会について、目的と対象者を明確にし、企業の選定を行っていく。

(委員からの意見質問)

○就労選択支援事業について教えていただきたい。

→これまで働く意欲のある方が福祉サービスを利用する際に計画相談支援の方と契約してアセスメントを取り、本人の特性等を把握していたが、アセスメントをとること自体が一つのサービスとなった。

<こども発達支援チーム>

・こどもの八田宇支援ハンドブックについて確認作業が終了次第、伊勢市HPへの掲載を考えている。

・サービス担当者会議等による福祉と教育の連携について、情報共有をしながら

ら良い方法の検討を継続して行う。

- ・研修会の内容や時期、方法について具体的な検討をする。

<医療的ケア児者チーム>

- ・医療的ケア児者の資源不足が長らく問題になっている。
- ・緊急時対応や社会参加支援の充実について力を入れている。
- ・医療的ケア児者ハンドブックの作成を行い、完成に向けて進んでいる。
- ・災害時の対応について、マッピングされた医療的ケア児の中で個別避難経過を作成済みの方から対象者を選定し、地域会議の内容について協議している。
(委員からの意見質問)

○医療的ケア児者ハンドブックはどれくらいの部数を予定しているのか？

→実際に手に取ってもらう方が数が不明なのと、最近ではQRコードの読み取りをして電子で読まれる方が多いと思われる。ガバメントクラウドファンディングも実施しますので、ご協力をお願いします。

<地域生活支援拠点チーム>

- ・地域資源であるグループホームや短期入所事業所、高齢者施設の見学会を行っている。
- ・登録事業所の拡大に向けてたような関係者との共同的に検討している。
- ・登録利用者の増加に向けて市内計画相談にアンケートを行い、緊急時プランの作成可能な方の実数を把握した。
- ・地域生活支援拠点事業の制度理解のためにパンフレットを作成したが、内容の精査及び改善が必要。

(3) 障害者虐待防止対策について

○事務局より資料に基づき説明

- ・障害者虐待防止法第35条に定める養護者による障害者虐待の予防や早期発見、迅速かつ適切な対応、養護者支援を実施するため、関係機関の皆様との協力体制の連携・構築を図りたい。
- ・本協議会において、各委員の皆様より、障がい者虐待の早期発見、障がい者の自立支援についてそれぞれの立場で気づいた点や地域の課題、市施策へのご意見をいただくことを通して、関係機関との連携体制の強化を図っていきたいと考えている。

- ・令和6年度の事業実績、令和7年度の取組みについて報告。

(委員からの意見)

○虐待通報件数は23件あり、そのうちの10件を認定されたとある。その中で相談通報件数が10件あるが、擁護者と使用者を合わせたところが23件で擁護者のみだと10件という認識でいいのか？また、どういったところから相談が寄せられているのかご教授いただきたい。虐待者の年齢層についても若い層が多いように見られるので、家族構成等を教えてもらいたい。

→23件というのは施設虐待等のすべてを合わせた件数となっており、擁護者における虐待の件数のみを掲載している。サービス事業者や関係機関からの相談があったりする。年齢や家族構成については、親子関係があったりすることが影響していると思われる。虐待の件数は高止まりしているが、皆様の中の虐待の認識が増えてきたのかと思っている。これからも啓発や研修等に取り組んでいきたい。

(4) 障害者差別解消法に関する取組について

○事務局より資料に基づき説明

- ・令和6年度の実績として新規採用職員への研修実施を報告。
- ・障害者週間において、市役所内含め様々な場所で啓発活動する予定。
- ・英語検定における配慮不足の相談事例を報告。

(委員からの意見)

○英語検定について、市を通しての要望であったので対応してもらえた可能性もあるので、良き事例として積み上げていただけるといい。

(5) その他

・15分雇用は検討していたが、実施しておらず、現在は短時間雇用ということで週2回の雇用を17名の方を雇用しており、4名の方が一般就労へ移行した。2名が一般就労と兼務している状況。

- ・11月のイベントについて事務局から紹介